

執筆者紹介（掲載順・敬称略）

《特別講演》

末木 文美士

東京大学名誉教授

国際日本文化研究センター名誉教授

《研究・解題》

渡辺 麻里子

大正大学文学部教授（日本古典文学）

原 克昭

弘前大学人文社会科学部准教授（日本思想史）

尾崎 名津子

弘前大学人文社会科学部准教授（日本近現代文学）

海浦 由羽子

円覚寺責任役員

《コメント》

伊東 信

深浦町教育委員会教育課

岩谷 泰之

大正大学文学部日本文学科助手

楠美 佳奈

弘前大学大学院人文科学研究科修士課程

二〇二二年一月現在

編集後記

例年とは異なる社会環境の中、本年度も『深浦円覚寺所蔵古典籍調査報告書』第三集の刊行の運びとなりました。

第三集では、二〇二〇年一月一日に開催した成果報告会（オンライン型フォーラム）を基調として、深浦円覚寺古典籍調査成果をまとめました。第一部・研究編には、真言宗を中心とした明治期仏教の位相と学際的環境について解明に御説くくださった、東京大学名誉教授・末木文美士先生の講演録を劈頭に、登壇者による各調査報告・各典籍解題・尊岸関係目録に加えて、円覚寺の海浦由羽子さんより津軽寺社の歴代住持・官司が展望できる一覧表を御寄稿いただきました。第二部・活動報告編には、調査活動およびフォーラム開催の協力者、フォーラムのWeb視聴参加者、それぞれの視点から寄せていただいた各種コメント・アンケート結果を、活動履歴と併せて集録しております。なお、表紙写真には、『印刷御記』（右上）、『両部習合灌頂次第』（左上）、『修験安心義鈔』（右下）、『華嚴五教章』（左下）の一部を掲載しました（いずれも深浦円覚寺所蔵、本集解題所掲）。

なお、本プロジェクト事業の立ち上げから携わっている渡辺麻里子氏の転出異動に伴い、今後は外部研究者として参加協力を仰ぐことで、引き続き地域に密着した調査活動の持続と全国規模での学術的発展という双方向的な学術的展開を切り拓くように努めてゆく所存です。

全国規模に及ぶコロナ禍にあって、本プロジェクト事業が継続展開できましたのも、ひとえに円覚寺ならびに深浦町の方々をはじめとする関係者各位の御理解と御協力があってのことです。改めまして深謝申し上げますとともに、次年度には青森県の文化財指定が達成されることを祈念しつつ、引き続きの御支援を賜れますと幸甚に存じます。

末筆ながら、本報告書の製作刊行に尽力くださった、有限会社小野印刷所の御担当のみなさまに感謝申し上げます。

深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクトチーム 原 克昭